

2025年3月23日

一般社団法人
三重県トライアスロン協会
会長 山田 康晴

三重県トライアスロン協会の活動について

平素は三重県のトライアスロン協会からに対し多くのご支援を賜り、感謝申し上げます。

弊会への賛助会員としてご協力いただいております賛助会員の皆さまに、2024年度弊会の事業活動について紹介をし、事業へのご理解を一層深めていただければと存じます。併せて、2025年度についても引き続き賛助会員の登録をお願い申し上げます。

また、新規に賛助会員として賛同をお考えの皆さまにおかれましては、2024年度三重県トライアスロン協会の活動報告をご覧頂き、弊会事業へのご理解を深めていただければと存じます。

敬 具

記

1. 三重県協会の使命と活動の方向性について

2021年に開催が予定されていた三重国体（現在は「国スポ」に改称）がコロナ禍で中止となりましたが、逆にこのことが当協会にとっては三重県内におけるトライアスロン競技を考える良いきっかけになりました。

つまり活動の方向性を、日本選手権や国体などのエリート選手を主とした事業推進から、トライアスロンから派生するマルチスポーツ全体を振興することによって地域社会との共生や、学校教育との良い関わりを図り、三重県に小さい子供から年配者までが謳歌できるスポーツとして根付かせることが一番の使命ではないかと考えました。

2. 2024年度の協会活動について

(1) 総会事項

2024年4月28日（日）三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1、鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスにおいて社員17名出席により、2023年（令和5年）度の社員総会が開催されました。

（決議事項）

- 第1号議案 2023年（令和5年）度 事業報告および決算に関する件
第2号議案 2024年（令和6年）度 事業計画および収支予算に関する件
第3号議案 理事12名選任の件
第4号議案 監事2名選任の件

が可決承認されました。 （現在の組織体制は別紙のとおり）

（報告事項）

2025年度のJTU会員登録料の変更について
一般会員の年間登録料を2025年度より1,000円上げることが報告しました。

（2）普及・発掘活動

三重県協会の一歩の使命を具現化すべく、2021年度に初開催をした「ジュニア向けトライアスロン体験会」は、2023年度より度会・津・鈴鹿の三拠点で開始し、2024年度については下記のとおり三拠点開催を継続しつつ内容充実を進めました。

2024年度の津会場（1月26日開催）では、午前中に三重県協会登録会員向けに練習会を開催し、3月29日の鈴鹿会場では、レース出場経験のあるジュニア登録会員の育成・強化を目指し、午前中の練習会に参加できるようにしています。

① 9月8日(日)トライアスロン体験会 in 度会 18名参加(全員小学生)



② 1月26日(日)トライアスロン体験会 in 津 24名参加(全員小学生)

※午前中には登録会員対象に練習会開催 14名参加(全員大人)



③ 3月29日(土)トライアスロン体験会 in 鈴鹿

会場：三重交通グループ スポーツの杜鈴鹿

現在22名申込（小学生～中学生）

※午前中には登録会員対象に練習会開催

現在13名申込(大人7名・小中生6名)

(3) 育成・強化活動

2024年度からは「普及・発掘活動」の次のステップとして「育成・強化活動」も手掛けてきました。

具体的には、まずはジュニア層の三重県協会登録会員の拡大です。

2023年度にはわずか4名(小・中・高校生会員)の登録でしたが、普及・発掘活動と並行して子供たちが参加できる大会の紹介などのコミュニケーションも功を奏し、2025年2月現在で9名まで増加しました。

また、ジュニア登録会員が大会に出場し入賞された場合には、大会参加費やJTU主催合宿参加費の一部補助が受けられる三重県協会独自の規定を新設し、2024年度は3名の小・中学生に計4万円補助を行いました。

今後この補助金制度を充実させ、三重県ジュニア選手の大会出場機会を拡大し育成・強化に繋げる策としていきます。

(4) 県内及び東海ブロック内の大会での主管業務

- ① 7月6日(土) 伊勢志摩・里海アクアスロン大会
未就学児から大人まで約200名参加
三重県協会登録のJTU公認審判員28名で運営
- ② 7月7日(日) 伊勢志摩・里海トライアスロン大会
全国から約800名が参加
三重県協会登録のJTU公認審判員38名と他県からの応援含め約50名で運営
- ③ その他、東海ブロック内の8大会へ三重県協会からのべ54名の審判派遣

3. 今後の重点活動項目

- ①三重県内において、トライアスロンという競技を多くの方に知っていただき、競技人口増加を図る。そのために未就学児から高校生までのジュニアが興味を持って参加できる体験会や練習会を開催する。
- ②「スイム→バイク→ラン」という3種目にこだわらない「マルチスポーツ」として、特に低学年からも親しみやすく、面白い競技で、本人の特性を生かせる企画を用意する。
- ③県内の各自治体や関連団体との協力体制、あるいはJTU（日本トライアスロン連合）との関係を深め、運営や指導の面で協力を仰ぐ。
- ④「伊勢志摩里海トライアスロン」は日本でも一番の人気大会として周知されています。関連機関との連携を深め、今後も進化を続けるように協力する。
- ⑤2035年に「三重国スポ」の開催が決定しました。三重国スポに向けての中長期的な協会の運営体制強化、審判員の充実も再度の課題として取り組むように考えております。

4. 活動強化のために

今後、三重県でのトライアスロン普及に関する課題は多くあります。

①指導者不足

県内にはトライアスロンを部活動とする中学校・高等学校はありません。

今までにジュニア教室で講師を務めていただいている柘田兄妹も、兄・貴理丸さんは、高校時代は津商業高校の硬式野球部でしたが、愛知県の大学入学後に競技を始めました。兄に影響を受けた妹・日菜果さんは練習環境に恵まれた愛知県の高校へ留学し、高校卒業後も愛知県を拠点としてスポーツクラブのアルバイトなどをし

ながら活動しています。

二人とも、トップアスリートとして活躍された浅沼美鈴氏が主宰するみよし市の「チーム・アルファ」に所属しています。他にも、伊勢志摩里海トライアスロンでレースディレクターを務める竹内鉄平氏が主宰する「あすたまとトライアスロンスクール」などがあり、そのような練習環境は三重県にはないものです。

つまり、県として競技を発展させる環境が整っていないことが指導者育成の壁ともなっています。

②競技自体の認知度が低い

トライアスロンと聞くと炎熱の下に行く「きつい」「過酷な」というマイナスイメージで捉えられがちです。そのため競技を始めることにまず抵抗があるようです。

しかし実際にはその人の体力に合わせた距離のカテゴリーや、一種目ごとに人が入れ替わるリレー形式での面白さを味わえる種目もあります。

また、マルチスポーツとして「スイム、バイク、ラン」の三種目にとらわれない「デュアスロン（バイクとランの複合競技）」や「アクアバイク（スイムとバイクの複合競技）」あるいは冬季にはクロスカントリースキーやスケートを含めた「ウインタートライアスロン」という競技もあります。

さらに最近ではゴルフ場で行う「ゴルフトライアスロン（ゴルフ、バイク、ランの複合競技）」も開催されています。

他にもFDG（フィールドディスクバリーゲーム）というアウトドアeスポーツの普及も行っています。

このように、マルチスポーツとして老若男女問わず無理せずに行える多様性をアピール出来ていないのは運営側である当協会でも反省すべき点です。

今後は、前述したジュニア教室の開催や三重県が主催するスポーツ教室などにも積極的に参加し、三重県でのマルチスポーツイベントの開催を発信することによって、“楽しい”トライアスロンの魅力を広く発信することが重要と考えます。

③財政面での課題

三重県トライアスロン協会は競技団体の中でも後発であり、会員数も200名前後で推移している小規模な団体です。会員が納入する会費や大会の主管料収入だけで今後の三重県におけるトライアスロン振興に関わる事業を継続的に行うには相当な無理があります。

過去には250名以上が登録されていた時期もありましたが、特にコロナ禍の昨今はレース数も減少したことでレースから離れる選手も多くおられます。その背景として、かなり高価なロードバイク購入の必要性や、開催地が全国的にあるがための遠征費の負担、大会参加費が他の競技と比べて高額なことなど、個人的な経済事

情による競技への敬遠もあるようです。

大会も公道や海岸、河川など広範囲を使用するため、地域の理解、エイドボランティアの献身的な無償の協力によって成り立っているのが現状です。

そのような環境の中で県内の会員数は伸び悩み、会費収入も漸減しております。

トップ選手になればオリンピックや世界選手権などの大きい大会に出場するためのワールドランキング上位が必須となり、そのため海外レースでポイントを獲得しなければなりません。遠征費はヨーロッパなどなら最低50万円は必要です。

先に紹介した栞田兄妹もアルバイトをしながら、またクラウドファンディングなどで遠征資金を工面しています。三重県協会からの資金援助はとても無理な話です。

以上のように、三重県のトライアスロンを取り巻く環境は大変厳しい状況です。

しかし、当協会はトライアスロンを通じて、老若男女問わず生活に潤いを感じる環境創出に少しでも貢献することが出来ればと考え、来期以降も活動を続けてまいります。

みどりクリニック様におかれましては、当協会のこのような現状をお知りおきいただき、引き続きご協力を賜りたく、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

以 上